

森林・農業班

ホームガーデンにおける植物利用性の多様性
ラオス中南部サワンナケート県の事例

和田泰司（京都大学大学院農学研究科）・縄田栄治（京都大学大学院農学研究科）

キーワード： 植物利用、ラオス、プータイ、ホームガーデン

調査期間・場所： 2005 年 8 月 -11 月 ラオス サワンナケート県 チャンボン郡、ウイラブリー郡

The comparison of diversity in plant utilization in home gardens
- A case on villages in Savannakhet province, Middle south part of Lao P.D.R -Wada Yasushi (Master course student, Laboratory of Tropical agriculture,
Graduate school of Agriculture, Kyoto University)Eiji Nawata (Associate professor, Laboratory of Tropical agriculture,
Graduate school of Agriculture, Kyoto University)

Keywords: Plant use, Laos, Phu Thai, Home garden

Research Period and Site: August-November and Savannakhet province, Lao P.D.R

1. 要旨

タイ系諸族のひとつプータイに関しては、その民族の定義において、長い間あいまいであった。本研究は、そのあいまいであった原因を明確にし、プータイの定義をしっかりと確認することから始めた。その結果、プータイは広義のプータイと狭義のプータイに分けられることがわかった。

本研究は、ラオス中南部サワンナケート県で、狭義のプータイの村を対象に、植物利用を中心に生活や、言語などをも調査していき、現在ラオス中南部に居住するプータイの民族的背景、社会環境や生態環境をあきらかにすることを目的としている。

2. 調査地の概要

サワンナケート県は北緯 16 ~ 17 度、東経 105 ~ 107 度に位置し、ラオス中南部に位置する。標高はメコン川沿いの 100 m から約 230 km 先のベトナム国境沿いのラオパオ峠の 240 m まで、緩やかに変化している。面積は 21774 m² でラオス最大の県である。地形的には面積の 58% を占める西部地方の低地と、42% を占める東部の丘陵地に分かれる。

雨季と乾季が明瞭に現れ、気温は年間を通して高く、年平均気温はおよそ 26 °C である。降雨は比較的気温の高い 4 月中旬から 10 月中旬の 6 ヶ月間に集中しており、長期観測による年平均降水量はおよそ 1710 mm であるが、年変化も大きい [2003 日本製紙連合会]。

今回は、県東部のベトナムとの国境に位置するウイラブリー郡、および同県西部にあるチャンボン郡のプータイ村にて調査をおこなった。チュオンソン山脈に接し、山に囲まれたウイラブリー郡に対して、チャンボン郡の位置する県西部は平坦であり、付近に大きな山はない。調査村の近くにはチャンボン川が流れ、一帯には低地が広がっているため、洪水や干ばつの被害に遭いやすい。

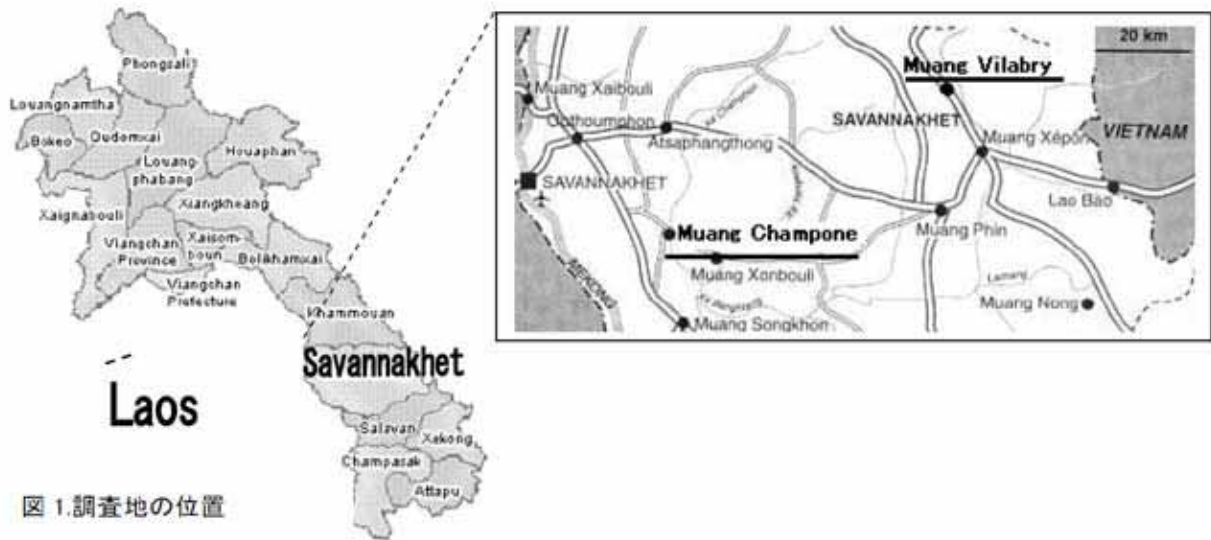


図1.調査地の位置

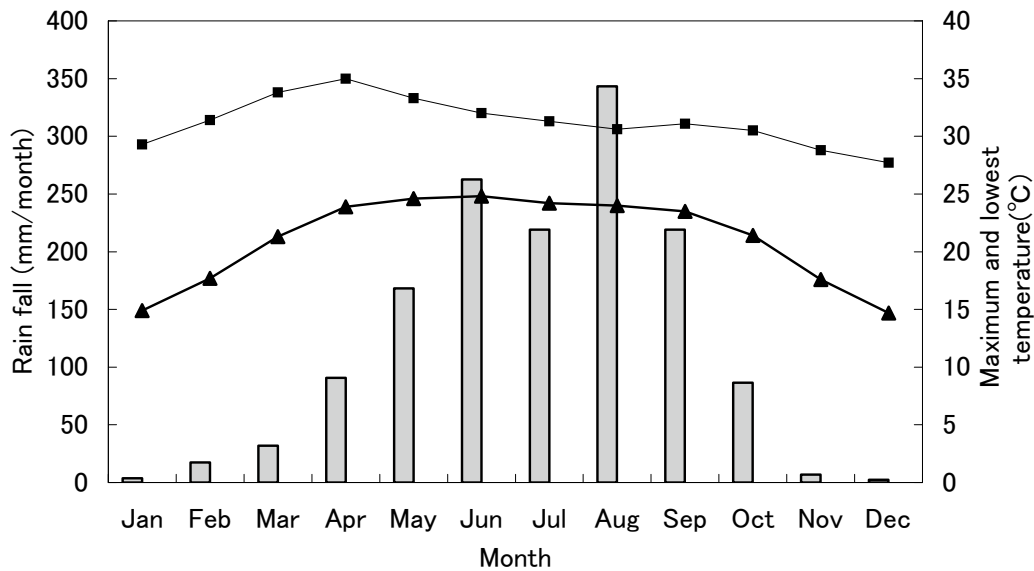


図2.過去30年間(1970-2000)のサワンナケート県の平均最高気温、最低気温(solid line)と降水量(bar)

3. 調査地の歴史的背景

サワンナケート県東部に位置するウイラプリー郡周辺は、ベトナムとラオスを隔てるチュオンソン山脈の中でも、標高の低いラオバオ峠に近く、ベトナムとの往来は比較的容易である。そのため、この付近は昔からベトナムからラオス、そして東北タイへの人の移動の経路であった可能性が高いと考えられている(1992 星野)。調査地での聞き取りの結果、少なくとも1800年代にはプータイの人々の村がいくつか成立し、一帯はムアン・アンと呼ばれていたことがわかった。ムアン・アンに村落が成立する以前にこのプータイの人々がどこに居住していたのかはよくわかっていない。その後、仏教を受容し、この付近でははじめての寺院を建立したという。

18世紀初頭、現在のラオスの位置には3つの王国が存在し、いずれの王国もタイやベトナムへ服属しなければならなかった。そのなかのピエンチャン王国の王アヌウォンは、その服属を嫌って、1826年タイ領・イサーンに侵攻、翌年にはタイからの独立を宣言したが、反撃に遭い、退却した。1831年、ラーマ3世はピエンチャンに討伐軍を送りアヌ王とその一族を捉えた。その後、アヌはバンコクでさらし首にされた。このアヌ王の反乱に際して、多くの人々が東北タイへの強制移住を余儀なくされた。この反乱に際して、ムアン・アンではアヌ王の親族を匿ったため、タイの侵攻を受けるなどして、人々は連行されたり、逃亡したりした。その人々の一部が、同じサワンナケート県でも西部にあたるチャンボン郡に定住をはじめ、チャンボン川の支流にTK村を拓いた。それが、TK村の起源となったという。TK村では、ベトナム戦争中に村の寺院が北ベトナム軍の拠点となった。

爆撃など戦火に巻き込まれ死傷する村人も出たことから一部の村人がTK村を離れ、すぐ近くの森であったところを伐り拓き住居を構え、TM村を建設した。つまりは、TM村は、このときTK村から派生した村である。N村は、TK村TM村から西に6kmほどに位置するプータイの村で、コークと呼ばれるやや乾燥した森林に近いところにある。聞き取りの結果、N村は、200年ほど前に同じクワンナケート県の東部に位置するセポン郡など（一部はTK村と同じウイラプリー郡？）から移ってきた人たちが建設したボンヅ村に起源を持つ。150年程前に、疫病（赤痢かコレラ）が大流行したため、ボンヅ村は放棄され、新たにドンカトゥップ村が建設された。そこからいくつかの村が派生したが、その一つがN村である。上記3村は現在、いずれも行政上はチャンボン郡タレオ地区に属している。

4. 調査方法

調査期間は2005年9月から11月までの計3ヶ月であり、その期間にTM村に滞在しデータを収集した。調査方法は、主にインタビューシートを用いた村人へのインタビューとホームガーデンでの有用植物の種名の記録である。インタビューの内容は、主に生業、森林利用、植物の利用法、家族構成などに関してである。

TM村（タレオマイ村）では123世帯中87世帯、TK村（タレオカオ村）では44世帯中42世帯、N村（ナータイ村）では、52世帯中50世帯の計179世帯に対して調査を行った。

調査村の選定などの予備調査は8月に行った。また、10月下旬に同県ウイラプリー郡にあり、TK、TM村の起源とされるプータイの村を訪問し、植物利用や歴史に関して聞き取りをおこなった。

なお本調査では、プータイのホームガーデンにおける植物利用に関しては、同じプータイ族を対象に、タイ、カーラシン県で行われた調査（2004 内田）の結果との比較が重要な目的の一つであった。しかし、後で詳しく述べるが、カーラシン県の調査で対象とされた民族は、内田自身の記述に従えばラオスからナコンパンノム県に移住して来たプータイ・ダムに由来しており、これは以下の記述等に示されているとおり、黒タイという別の民族の可能性もある。Tai dam（黒タイ）とPhu thai damは同じ民族であり、西北ラオスのダム川もしくはデー川川の氾濫原のシブソン・チュタイに定住していた[Prachan Rakpong 2000, Center for Southeast Asian Studies of Northern Illinois 2006]。ピエンチャン王国のアヌ王がタイのチャクリ王朝に対して起こした反乱が鎮圧されて以降、Phu thai dam（黒タイ）とPhu thai khao（白タイ）の人々は、東北タイのナコンパンノム県の高地に定住した[Suvit Yodmani 2006]。後述するが、黒タイは広義のプータイであり、クワンナケートの調査村のプータイ（狭義のプータイに該当すると考えられる）とは、異なる民族として定義されている。これらのことから、カーラシン県での調査結果とクワンナケート県での調査結果を単に同じ民族のものとして扱うことは難しい。確認のためにも歴史の照合などのさらなる検討が必要であろう。そのため、2006年度ではタイ、カーラシン県における再調査を考えている。

5. 調査結果

ウイラプリー郡での調査は、2006年度の調査のための予備的なものであったため、今回は言及しない。以下、チャンボン郡での調査結果を示す。

1) 調査村の生業

村人のほとんどがイネを栽培する農家であり、家族の構成員の一部が雑貨商や教師や農業事務所の職員などの公務員として働いている世帯はあるが、全く農業に従事していない世帯は、3村の中にはほとんどない。

天水田が中心で、平均すると1.6t/haほどの収量があるが、洪水や干ばつが数年後ごとに起こるので、収量は不安定で、そのほとんどが自家消費用として消費され、毎年のように収穫期前には米を買う世帯が多い。灌漑田はまだ少ない。

各世帯は、収入の不足を補い不測の事態に備えるために、（トラクターを持っても）財産として水牛を飼養する、庭に換金性の高いココナツやバナナなどを植える、子供をバンコクやピエンチャンなどに出稼ぎに出すなどの手段を講じている。

2) プータイのホームガーデン

プータイでは、ホームガーデンを son kho (ラオ語では suan khua) とよぶ。son とは、「庭」、kho とは、「台所の」、つまり「台所用の庭」という意味である。食用植物、建材、宗教的な意味合いのある植物、観賞用植物など、台所用と呼ばれながらも son kho には 300 種を超えるさまざまな植物が栽培されている。今のところどの植物が、そしてどのような利用が、プータイを特徴付けているのかは述べられない。ここでは、調査した世帯の son kho からの植物の利用の概観を提示するにとどめる。

son kho で栽培される植物は大きく分けると次の 5 つに分かれる。なお、植物の学名に関しては、『Checklist of Lao plant names』(Mike Callaghan 2004) を基準にした。

1) 食用植物

草本野菜、香辛料、樹木野菜、果樹、イモ類などからなり、栽培されている植物の大半を占める。主には自家消費のために栽培されているが、一部の植物は換金を目的に栽培されていて、仲買人が買いに来たり、市場に売りに行くこともある。

a. 草本野菜、香辛料

草本野菜の中では、最も多く見られたのが、ヒメボウキ (*Ocimum canum* Sims) やレモングラス (*Cymbopogon nardus* Rendle/citrus (DC.) Stapf) などに代表されるレモンのような清涼感のある香りがする植物で、今回調査した 7 割以上の世帯で栽培され、主に自家消費用として食卓に上っていることがわかった。どちらも魚のスープなどの臭みがあるものに用いて、におい消しの効果を期待したり、体の調子が良くなるなど薬としての効果も期待して利用しているようである。また、ヒメボウキは、ナガササゲ (*Vigna unguiculata* (L.) Walp. ssp. *unguiculata*) などと和えて、生で食べることも多い。辛味も好まれるため、トウガラシ (*Capsicum* species generally) は、7 割近い世帯で栽培され、いろいろな料理に用いられる。食事の際にはチェオという唐辛子味噌が欠かせず、さまざまな料理につけて食べられる。チェオはトウガラシなどを用いて各家庭で作られる。トマトを潰したチェオやチローというコオロギの仲間をすり潰したチェオなどいくつかの種類がある。ニガウリ (*Momordica charantia* L.) や *Solanum stramonifolium* Jacq などのナス科の苦味の強い植物も好まれ、約 1/3 の世帯で栽培されていた。

b. 樹木野菜

各村では、調査した 9 割以上の世帯において森からの樹木野菜を採取し、ほとんどの場合は自家消費している。便利がいい、定着しやすいという理由で phak kha don (*Careya sphaerica* Roxburgh) や phak sa mek (*Syzygium gratum* (Wt.) S.N.Mitra var. *gratum*) などを森から son kho 内に移植し利用していることもある。son kho 内で栽培され、よく利用されている樹木野菜は、ギンネム (*Leucaena leucocephala* de Wit) が最も多く、6 割以上の世帯で栽培されている。その実をタムマックフーン (パパイヤサラダ) やラーブ (肉とハーブの和え物) などと一緒に生食する。キャッサバ (*Manihot esculenta* Crantz) は、葉を蒸して食べる。根はそのまま蒸したり、甘いスープにして食べる。これは、1/3 を超える世帯で栽培されている。また 2 割弱の世帯では、シロゴチョウ (*Sesbania grandiflora* (L.) Desv) を栽培し、花を蒸して食す。これら樹木野菜の多くは、苦味が強い。

ホームガーデンで栽培されている植物、食卓に上る料理などを見てみると、苦味の強い樹木野菜や先に述べたニガウリ (*Momordica charantia* L.) や *Solanum stramonifolium* Jacq などのナス科の苦味の強い草本野菜を食すなど、苦味の強いものに対する嗜好、味付けにライムを多用したり、アカアリを生やスープで、草本野菜やタケノコを漬物にして食すなど、酸っぱいものに対する嗜好、トウガラシを生で、また唐辛子味噌にして料理に付けて食べるなど、辛いものに対する嗜好が強いことが窺える。

c. 果物

果物は重要な換金手段である。特にバナナやココナツは重要な換金作物で、個人で市場まで売りにいくこともあるが、たいていは村内・外の仲買人が買い付けに来る。バナナは 7 割弱の世帯で栽培されていて、他にも、葉は食品の包装材として販売されることもある。また、茎は飼養している家畜の餌として利用される。パパイヤ (*Carica papaya* L.) も 7 割弱の世帯で栽培されていて、まだ青い実をタムマークフーン (パパイヤサラダ) に、茎をタムマーククアイ (バナナの花のサラダ) にして食べることが多いが、一部は完熟させて果物として食す。たくさん実ができれば売ることもある。グアバ (*Psidium guajava* L.) は、半分以上の世帯で栽培されている。果物としての利用だけでなく、葉を煮出して、茶にして胃の調子を整える薬としても利用されている。

d. イモ類など

ミツバドコロ (*Dioscorea hispida* Dennstedt) は、3割以上の世帯で栽培されており、蒸して食べられる。昔は水に浸して肌の色を白くする化粧としても用いられていた。しかし、肌が痒くなるなどの副作用もあり、現在ではこの用途で用いられることはない。サツマイモ (*Ipomoea batatas* Lamk.) は、イモは蒸して、葉や若い茎は蒸す、茹でる、スープにするなどして利用される。タロ (*Colocasia. esculentum* Schott) なども、自家消費用に栽培されている。その他、量的にはわずかであるが、ヤマノイモ属のいくつかの種類のイモが試しにホームガーデン内に移植されることもある。

e. 薬用植物

6割弱の家庭ではウコン (*Curcuma longa* L.) が栽培され、塊茎を揉んでその汁を利用することで、かゆみ止めの効能を得ている。他にも、タカサゴギク (*Blumea balsamifera* (L.) DC.) など葉のゆで汁を浴びることで、同じかゆみ止めの効用があるとされ、利用されている。シコウカ (*Lawsonia inermis* L.) は絆創膏の代用として利用される。胃のむかつきには kheeng dam という植物の塊茎を蒸して食べると良いとされ、栽培されている。このように、ホームガーデンに栽培されている薬草は、比較的軽微な症例に効果のあるものが多いようである。

T M村に診療所があり、インタビューの際には、世帯内で病人が出たときに診療所を利用したことがあるかという質問に、利用したことがあると答えた人は調査した調査村3村全世帯の9割にのぼった。薬草医を利用したことがあるかとの質問には6割程度が、ホームガーデンの薬草を利用したことがあるかとの質問には4割から5割が、森から薬草を採取して利用したことがあるかとの質問には4割弱が、利用したことがあると回答した。利用の累積回数も診療所が一番多く、疾病時の診療所の役割が大きいことがわかる。「最近では、使うのは診療所の薬だけで、薬草はほとんど使わない。」という答えをインタビュー中に度々に耳にした。病気の治療において薬草の利用価値が低下しているのかもしれない。

f. 観賞用植物

サワナナケト、ピエンチャン、バンコクの市場から購入してきたり、それらを近所の人から譲り受けたりして、実に様々な花やサボテンなどを栽培している。葉を鑑賞する植物も多い。新しく入手したものが多く、そのために名がつけられていないものが多い。近くの森から取ってくるランの仲間も、観賞用であるとともに、主にベトナム人などが来たときに高値で買ってもらうことを予想して、換金用に庭に植えているという場合も多い。

g. 宗教的な意味合いを持つ植物

それぞれの村には仏寺があり、村人は現在上座部仏教を信仰している。各家々では、マリーゴールド (*Tagetes patula* L.)、アコン (*Calotropis gigantea* (L.) Dryander ex W.T.Aiton) キバナキョウチクトウ (*Hevetia peruviana* (Persoon) K. Schumann) インドソケイ (*Plumeria acutifolia* L.) などを栽培し、仏教行事の際に利用している。マリーゴールドは花をタムマークトゥア (ナガササゲのサラダ) に付け合せて食べることがあるが、その他の植物は、宗教上以外の用途はあまり無いようである。

h. その他

藍染め、

プータイは、伝統としてアイ (*Indigofera tinctoria* L.) とワタを栽培して、糸を紡ぎ、染色し、衣服を仕立て、着用していた。現在でも、アイやワタを栽培し、衣服に仕立てている世帯はあるが、若い世代を中心に市販のTシャツなどを着用することが多くなったためか、少数である。この村の起源村にあたるウイラプリー郡のプータイ村では、藍だけでなく、マンゴーの樹皮や鉄さびなどを用いて多様な染物を作り上げていた。現在は、ランサーンカンパニーの支援を受けて、商業ベースに乗っているものなので、軽はずみな判断はできないが、その染色技法がプータイ族の伝統に基づくものであれば、ラオス中南部におけるプータイ族の出自を探るうえで、面白い素材となるのではないだろうか。

2) 今後の調査の展望

起源村となるウイラプリー郡での調査、調査村周辺にある他民族の村などの調査を通して、ラオス中南部に居住するプータイの植物利用の多様性を明らかにするとともに、プータイ本来の植物利用をさぐる。また、カーラシン県のプータイ・ダムを言語や出自の面から再調査し、同じプータイとして比較できるのか検討する。

6. 民族の概要

(1) タイ系諸族の歴史

タイ系諸族の起源に関しては詳しいことはまだはっきりとしていない。アルタイ山脈付近や中国の長江南部流域などを起源とし、中国の圧力により次第に南進、紀元前にはすでに現在の雲南省にあたる地域に居住していたといわれている。8世紀半ばには雲南省の洱海地区にチベット・ビルマ語族の王国南詔が建国される。中国や南詔国の圧力を受け、このころからタイ系諸族の東南アジア大陸部への移動が本格化し始めたという。13世紀になると、元のフビライ・カーンが雲南に侵攻してくる。この時期、東南アジア大陸部ではクメールのアンコール朝が分裂し衰退を始め、ビルマ人のパガン朝ビルマは元の侵攻を受けて滅亡し、東南アジア大陸部には大きな政治的空白が生じる。この元による雲南侵攻による圧力と東南アジアの政治的空白などをきっかけに、タイ系諸族の南下は加速する。13世紀から14世紀にかけて、タイ系諸族は東南アジア大陸部に広く分散し、北は雲南シブソン・パンナーのチェルルン（現在の景洪）、東は北ラオスのシェントーン（ルアン・プラバーン）、ベトナム北西部のシブソン・チュタイ（ディエン・ピエン・フー周辺）、西は北ビルマ・シャン高原のチャイントウン（ケントウン）、さらに西にインド・アッサム州など、広い範囲にタイ系諸族の王国が成立することとなる。

(2) プータイ (Phu thai) とは

広義のプータイ

李方桂（1960）の分類によると、プータイはタイ・カダイ語族南西タイ諸語に属するタイ系諸族のひとつである。1995年に出されたラオスの国勢調査によると、Lao・Seak・Lue・Phu thai という4つの大きなタイ系諸族の下位グループのうち、Phu thai とは前3者いずれにも含まれない集団の総称と定義されていた [Joachim schliesinger 2003]。それ以前にも、Phu thai という語は Phu = 人 Thai = タイ系の、つまり Phu thai = 「タイ系の人」という意味で広く捉えられてきた。それは、それぞれが独自の言語を持つタイ系のさまざまな集団（黒タイ・白タイ・赤タイなど）が自分たちのことを Phu thai と呼んでいること [Chamberlain, James R 1983]、また、Phu = 山、Phu thai = 「高地に住むタイ系の民族」の意味で捉え、言葉や習慣が違っているタイ系諸族同士であっても、住む場所が高地であるという理由でそれらを総称してプータイとして記述していること多かった [Joachim schliesinger 2003] ことなどにも表れている。

狭義のプータイ

これらにあてはまるプータイを広義のプータイとすると、その中には黒タイ、白タイなどもプータイに含まれ、ベトナムやラオス、タイに広く分布し、ラオスにおいてその人口は472,458人である [National statistical center 1995]。しかし同時に、この広義のプータイ族の中にも慣習において、伝統において、また他のタイ系諸語とははっきりと区別できる特徴を持ったプータイ語を話すなどの点において、共通した特徴を持つグループ（狭義のプータイとする）がいることも以前から明らかであった。しかし、このグループを他と区別する際に用いられる呼称もたいていはプータイであった。そのために、プータイという語が用いられた際、その指す意味の範囲がわかりにくいということはラオスの民族を研究している人たちや政府の中でも意識されていたようである。2005年にラオスで出された報告書 [Department of ethnics in Lao National Front for Construction 2005] では、ラオスにおけるタイ系諸族の分類法が新しくなり、広義のプータイから、黒タイや白タイなどの、狭義のプータイではないグループを切り離し、それらを新たに創った Tai という分類への分けなおしがおこなわれている。以下、狭義のプータイを中心に述べていく。

狭義のプータイの起源に関しては、その集団が最近ラオ文字を受容した以前には、文字を持っていなかったこともあって、詳しい文字資料はほとんど無い。9世紀末までに広西チワン族自治区からベトナム北西部のシブソン・チュタイに移住してきたタイ系民族と漢民族の混血集団だという説はあるようだ [Joachim schliesinger 2003] が、その根拠は示されていない。

現在は、タイでは東北タイのナコンパノム県、ラオスでは中部のカムムアン県やサワンナケート県、ベトナムでは中部のゲアン省などを中心に分布している。ラオスでの人口は、1999年段階で15,000人以下であろうという試算がある。 [Joachim schliesinger 2003]

プータイ語の特徴から

- 1. 近隣のタイ系諸言語との比較の中から

2004年、ラオスのサワンナケート県に北接するカムムアン県のナカイ郡において、そこに居住するほぼ全ての8つのタイ系諸族(Lao, Kaleung, Tai Bo, Phu Thai, Tai Moei, Tai daeng, Tai Men, Seak)の言語調査がおこなわれた。[NTPC 2005]

その報告書に記載されたそれらの民族における単語の発音対照表を資料として用いて、ラオ語と比較してみると、プータイ語の発音には次のような特徴が見られた。

	ラオ語	プータイ語
牛	ng <u>ua</u>	ngo
頭	h <u>ua</u>	hoo
洪水	nam tu <u>am</u>	nam to <u>m</u>
トラ	s <u>ua</u>	see

二重母音 ua が o または oo、wa が əə と置き換わっている。まったく同じラオ語とプータイ語間の音の関係性は、今回調査をおこなったサワンナケート県のプータイの村3村にも等しく見られた。

サワンナケートの調査村では、このほかの単語でもラオ語とプータイ語の間に、

.ua が o または oo

kuay (バナナ) が koi

phua (夫) が phoo

. a w が əə

hwan (家) が hən

lwat (血) が læt

lway lway (いつも) læə y læə y

という関係性があることが、この母音を含む多くの言葉で確認できた。

もう一度対照表を参照すると、他の6つのタイ系言語は、水牛、頭、トラのいずれの単語も Seak 語を除いてラオ語とまったく同じ発音(ngua, hua, swa)をしている。プータイ語と同じように、ラオ語の二重母音 ua が oo もしくは o, そして、wa が əə という関係性を持っている単語は一つも見ることができない。そして、Seak 語は、発音はラオ語と異なるものの、プータイ語の発音との共通性はまったく見られない(ngao, maakkrao, kuuk)。

対照表に記載されている他の単語に関して音の関連性を調べてみても、これらのタイ系諸語には、プータイ語との系統の近さを指し示すような特徴をほとんど確認することはできなかった。

- 2 他のタイ系諸言語との類似性について

麗澤大学大学院言語教育研究科 1998 年度海外現地調査報告書では、北タイでタイ系諸語ルー語の言語調査をし、現在タイ国の標準語であるタイ語(誤解をまねかないように、以下シャム語と記す)と比較した結果が書かれている。Hartmann によれば、ルー語は中国、ミャンマー、ラオス、ベトナム、タイの5カ国に分布するとされる。中国では雲南省西双版纳傣族自治州を中心に分布し、ミャンマーではシャン州、ラオス・ベトナム・タイではそれぞれ北部地域に分布するとされる [Hartmann 1976]。先述の報告書によると、ルー語には二重母音がない、シャム語の二重母音は ia, wa, ua の3種であるが、ルー語ではそれぞれ、長母音 ee, əə, oo に対応すると書かれている。これを、『濁流と満月 タイ民族史への招待』に記載されているタイ語群対照表 [星野 1990] などにも照らして検証すると、

	ラオ語	ルー語	プータイ語
牛	ng <u>ua</u>	h <u>o</u>	ng <u>o</u>
頭	h <u>ua</u>	h <u>o</u>	h <u>o</u>
バナナ	ku <u>ay</u>	ko <u>i</u>	ko <u>i</u>
豆	th <u>ua</u>	th <u>o</u>	th <u>o</u>
血	l <u>uat</u>	l <u>ət</u> / l <u>əət</u>	l <u>əət</u>

となり、ua と o, ua と əə の対応関係が確認できる。

	ラオ語	ルー語	プータイ語
妻	mi <u>a</u>	me <u>e</u>	me <u>e</u>
学ぶ	hi <u>an</u>	記載無し	he <u>en</u>
蛙	kh <u>iat</u>	x <u>et</u>	kh <u>heet</u>

ia と ee の関連性についても、同じことが言える。

今回確認はできなかったが、Gedney [Gedney 1964] によれば、同じ対応関係が白タイ語にも見られるそうである。

ビルマのマオシャン語、インドのアッサム地方に分布するカムティ語などにもプータイ語と同じようにラオス語との間に ua と o, ua と ə, ia と e の対応が見られる。

	マオシャン語	カムティ語
牛	ng <u>o</u>	ng <u>o</u>
頭	h <u>o</u>	h <u>o</u>
豆	th <u>o</u>	th <u>o</u>
血	l <u>ət</u>	l <u>ət</u>
蛙	kh <u>et</u>	kh <u>et</u>

また、音節頭子音のうち、シャム語の低子音の無声有気閉鎖音が、無気音に対応するのが、南西タイ諸語のうちタイ国のタークからウタラデットを結ぶ線以北の諸言語に共通する特徴であるとされ、タイ北部からマナーン州、雲南省南部に分布する南西タイ諸語に共通してみられる特徴である [坂本ら 1998] とある。つまり、シャム語で、各音節の最初に現れる子音のうち ph (ᦶᦑᦟᦹ), t h (ᦶᦑᦟᦹ), k h (ᦶᦑᦟᦹ) で発音される言葉は、これらの地域では p , t , k で発音されるということだが、これまでのところ、先述の報告書 [NTPC 2005] や調査地でのプータイ語にはこれらの特徴は確認することができなかった。

	シャム語・ラオ語	プータイ語
道	th <u>a</u> ang	th <u>a</u> ang
父	ph <u>o</u> o	ph <u>o</u> o
思う	kh <u>h</u> iu	kh <u>h</u> iu

- 3 まとめ

これらのことから、ラオス中南部におけるプータイ語は、ラオス語との間に ua と o、 wa と əə、 ia と e の対応が見られる点でラオ語（シャム語も共通）や付近のタイ系諸語と異なる。ラオス中南部のプータイ語と同じ特徴は、ルー語、白タイ語などベトナム西北部、ラオス北部、雲南省などの北方の言語にみられる。また、ラオス中南部のプータイ語へのラオ語の影響は大きくないこと、起源の古い村（17C～）がベトナムとの国境に近いことなどから総合すると、プータイは北方からベトナム国境付近沿いに、もしくはベトナム国内を南下してきた可能性は高い。

また、低子音の無声有気閉鎖音が無気音に対応する特徴はもたないので、タイ北部からミャンマーシャン州、雲南省南部より南の地域（例えば、先掲の説のようにベトナム北西部など）にかつて狭義のプータイ族のセンターがあった可能性はある。

7. 引用・参考文献

単行本

- チット・プーミサク著 坂本比奈子訳 1992 『タイ族の歴史 民族名の起源から』 井村文化事業社 .
 Gary Martin 2004 Ethnobotany A method of manual : Earthcan
 星野龍夫 田村仁 1990 『濁流と満月 タイ民族史への招待』 弘文堂 .
 池橋宏 2005 『稲作の起源 イネ学から考古学への挑戦』 講談社メチエ .
 岩佐俊吉 2001 『図説熱帯の果樹』 農林水産省国際農林水産業研究センター .
 Joachim schliesinger 2003 Ethnic groups of Laos vol.3 Profile of Austro-Thai-speaking peoples: White Lotus
 ラオス文化研究所編 2003 『ラオス概説』 めこん出版 .
 Mike Callaghan 2004 Checklist of Lao plant names
 Patric D.McMakin 2000 Flowering plants of Thailand A field guide: White Lotus
 桜井由躬雄 2002 『東南アジアの歴史』 放送大学教育振興会 .
 Suvit Yodmani 2006 Thailand traits and trasures: National identity office, pp. 294-331
 土橋豊 2000 『熱帯の有用果実』 トンボ出版 .

論文・報告書

- Cam Trong 1992 Tu nhung ten goi cua tung dan toc trong cong dong ngon ngu Tay, Thai chung ta co the nghien cuu gi ve nguon goc cua ho (タイ、タイ系民族の呼称から、我々は彼らの起源について何が学べるのか。), *Tap chi Dan toc hoc* (雑誌 民族学)
 Chamberlain, James R 1983 The Tai dialects of khammouan province: Their Diversity and Origins, *16th International Conference on Sino-Tibetan Language and Linguistics, Seattle.*
 Department of ethnics in Lao National Front for Construction 2005 The ethnic groups in Lao P.D.R: Lao National Front for Construction.
 Gedney 1964 A comparative sketch of White, Black, and Red Tai , *The social science review* special number 14,
 郭艶春 1997 「雲南タイ族の環境保全思想と技術 - 西双版纳の村から - 」 『東南アジア研究』 35 巻 3 号
 Li, Fang Kuei (李方桂) 1960 A tentative classification of Tai dialects Essays in honor of Paul Radin: Columbia Universty Press.
 日本製紙連合会 2003 ラオス人民共和国におけるパルプ用材適地調査報告書 , 日本製紙連合会 .
 National Thermal Power Corporation Ltd (NTPC) 2005 Nam Theun Hydroelectric project social development final draft vol.1 chapter2.
 Prachan Rakpong 2000 Tai Dam in Laos : Rituals of the Death, Dynamics of Ethnic Cultures Across National Boundaries in Southwestern China and Mainland Southeast Asia: Relations, Societies, and Languages, pp.

66-81

内田ゆかり 2004 ホームガーデンにおける植物利用の多様性の比較 2004 年度生態史プロジェクト報告書 :
84 - 101

Web 資料

麗澤大学大学院言語教育研究科 1998 海外現地調査報告書 web version, <http://www.cs.reitaku-u.ac.jp/~sakamoto/chosa98/>

Center for Southeast Asian Studies of Northern Illinois, Tai Languages and culture, <http://www.seasite.niu.edu/tai/>

林謙一郎 雲南・東南アジアに関する漢籍史料, <http://www.lit.nagoya-u.ac.jp/~maruha/kanseki/>

The Center for U.S.-China Arts Exchange Columbia University in the City of New York, <http://www.columbia.edu/cu/china/Vi.html>

Abstract

Definition of Phu thai, a kind of Thai group, has been ambiguous for a long time. This research started from revealing why this definition has been so ambiguous. Phu thai has two meanings: one is a name for a specific group in which people speak Phu thai language. The other is a name for upper unit of the group, which contains some specific groups.

This research aims to certify the ethnological background and social and ecological environment of Phu thai in Savannakhet province in middle-south part of Lao P.D.R. Investigations was carried out by examining plant usage and its relation to their life style.

出現種一覧 vol.1

No.	Scientific name	Family	local name	English name	Japanese name	Use
1	<i>Barleria impulina</i>	Acanthaceae	dork pit, kai dam (varn)	Hop-headed Barleria		
2	<i>Pseuderanthemum crenulatum</i> Redl.	Acanthaceae	peek kai dam		ハンガルヤハズカズラ	
3	<i>Thunbergia grandiflora</i> Roxburgh	Acanthaceae	kheua narm nae narm nae	Blue trumpet vine		
4	<i>Amaranthus caudatus</i> Linh.	Amaranthaceae	phak khom	Chinese spinach		葉, 茎食用
5	<i>Amaranthus lividus</i> Linh.	Amaranthaceae	phak hom phao/ horn nyai	Jyoseph's coat		葉, 茎食用
6	<i>Amaranthus spinosus</i> Linh.	Amaranthaceae	phak hom narm	Spiny amaranthus		鑑賞
7	<i>Celosia argentea</i> Linh.	Amaranthaceae	dork horn kai'	Cockscomb		
8	<i>Gomphrena globosa</i> Linh.	Amaranthaceae	dork phit- phoe	Bachelo's button		
9	<i>Hymenocallis littoralis</i> (Jacquin) Salisb.	Amaryllidaceae	varn son	Water rhizome		
10	<i>Anacardium occidentale</i> Linh.	Anacardiaceae	mark muang hima pharn	Cashew nut tree		実, 茎食用
11	<i>Bouea oppositifolia</i> (Roxburgh) Meissner	Anacardiaceae	mark pharng	Plum mango		
12	<i>Mangifera indica</i> Linh.	Anacardiaceae	mark muang	Mango tree		実が食用
13	<i>Mangifera</i> sp.	Anacardiaceae	mark muang khai'			
14	<i>Spondias pinnata</i> (Linh.f.) Kurz	Anacardiaceae	mark kork	Hog plum		実が食用
15	<i>Annona cherimola</i> Linh.	Annonaceae	kok khan tha-lot	Cherymoyer		実が食用
16	<i>Annona muricata</i> Linh.	Annonaceae	kok mark khiap farang	Sour soup		実が食用
17	<i>Annona squamosa</i> Linh.	Annonaceae	mark khiep (nar)	Custard apple		実が食用
18	<i>Adenium obesum</i> Roem. & Schult.	Apocynaceae	dork cham-pee			鑑賞
19	<i>Catharanthus roseus</i> (Linh.) G. Don	Apocynaceae	dork 3 pea	Periwinkle		宗教
20	<i>Plumeria acutifolia</i> Linh.	Apocynaceae	dork champar khaao	Singapore plumeria		宗教
21	<i>Plumeria rubra</i> Linh.	Apocynaceae	dork champar daeng			
22	<i>Tabernaemontana divaricata</i> (Linh.) R.Br. Ex Roem. & Schult	Apocynaceae	dork phut	Trumpet flower		宗教
23	<i>Thevetia peruviana</i> (Persoon) K. Schumann	Apocynaceae	dork ka-dan ngar	Elephant yam		葉
24	<i>Amorophallus peanonifolius</i> (Dennst.) Nicolson	Araceae	hua ka-buk	heart-of-Jesus		鑑賞
25	<i>Caladium bicolor</i> Ait. Vent.	Araceae	dork bua kham	heart-of-Jesus		鑑賞
26	<i>Caladium bicolor</i> Ait. Vent.	Araceae	dork bua ngern			
27	<i>Calamus</i> spp.	Araceae	vai	Taro		茎食用
28	<i>Colocasia esculenta</i> (Linh.) Scott var. <i>esculenta</i>	Araceae	hua pheuak	Taro		
29	<i>Colocasia esculenta</i> (Linh.) Scott var. <i>euchlora</i>	Araceae	born	Taro		
30	<i>Colocasia gigantea</i> Hook.f.	Araceae	thoon (nyai)	Taro		
31	<i>Polyscias fruticosa</i> (Linh.) Harms	Araliaceae	kok niem	Crown flower		宗教
32	<i>Calotropis gigantea</i> (Linh.) W.T.Aiton	Asclepiadaceae	dork hak	Carambola		実が食用
33	<i>Averrhoa carambola</i> Linh.	Averrhoaceae	mark feuang			葉食用
34	<i>Barringtonia acutangula</i> (Linh.) Gaertner	Barringtoniaceae	phak ka-donh nam			葉食用
35	<i>Careya sphaerica</i> Roxburgh	Barringtoniaceae	kok ka-don			
36	<i>Betula alnoides</i> Buchenau-Ham	Betulaceae	kok ket-sa-nar			
37	<i>Fernandoa adenophyllia</i> (G. Don) Steenis	Bignoniaceae	khae lao			
38	<i>Millingtonia hortensis</i> Linh. f.	Bignoniaceae	kok karm khorrng	Cork tree		実, 花食用
39	<i>Oroxylum indicum</i> (Linh.) kurz	Bignoniaceae	mark leen mai			
40	<i>Pachyptera hymenaea</i> (DC.) A. Gentry	Bignoniaceae	dork samang			実, 茎, 花食用

No.	Scientific name	Family	English name	Japanese name	Use
41	<i>Bixa orellana</i> Linh.	Bixaceae	Anatto	ベニノキ	
42	<i>Bombax ceiba</i> Linh.	Bombacaceae	Kapok	キワタノキ	
43	<i>Heliotropium indicum</i> Linh.	Boraginaceae		ナンバンノリリノウ	
44		Boraginaceae			
45	<i>Ananas comosus</i> (Linh.) Merrill.	Bromeliaceae	Pineapple	パイナップル	実が食用
46	<i>Limnocharis flava</i> Buchenau	Butomaceae	Yellow bur head	ミスオモダカ	実が食用
47	<i>Tamarindus indica</i> Linh.	Caesalpinaceae	Tamarind	タマリンド	鑑賞
48	<i>Caesalpinia pulcherrima</i> (Linh.) Sw.	Caesalpinaceae	Flower fence		宗教
49	<i>Cassia fistula</i> Linh.	Caesalpinaceae	Golden shower	ナンバンサイカチ	建材
50	<i>Peltophorum dasyrachis</i> . (Miq.) Kurz	Caesalpinaceae	Yellow batai		鑑賞
51	<i>Canna indica</i> Linh.	Cannaceae	a laang	ダンドク	
52	<i>Cleome gynandra</i> Linh.	Capparaceae	dork kuay noy	フウチョウソウ	
53	<i>Carica papaya</i> Linh.	Caritaceae	phak sien	パパイヤ	茎, 実食用
54	<i>Blumea balsamifera</i> (Linh.) DC.	Compositae	mark hung	タカサゴギク	葉
55	<i>Elephantopus scaber</i> Linh.	Compositae	bai nart	Prickly-leaved elephant's foot	葉食用
56	<i>Helianthus annuus</i> Linh.	Compositae	nya khee fai' nok khum	Sun flower	鑑賞
57	<i>Lactuca sativa</i> Linh.	Compositae	dork bua thornng	ヒマワリ	
58	<i>Spilanthes acmella</i> Murr.	Compositae	phak sa-lat	レタス	
59	<i>Tagetes patula</i> Linh.	Compositae	phak khart	オランダセンニチ	葉食用
60	<i>Ipomoea aquatica</i> Forssk.	Convolvulaceae	dork dao heuang	マリゴーランド	宗教・花食用
61	<i>Ipomoea batatas</i> Lamk.	Convolvulaceae	phak bung	エンツアイ	葉, 茎食用
62	<i>Ipomoea quamoclit</i> Linh.	Convolvulaceae	man darng	サツマイモ	(塊) 茎, 葉食用
63	<i>Khalanchoe pinnata</i> (Lamk.) Persoon	Crassulaceae	dork 5 che	ルコクソウ	
64	<i>Benincasa hispida</i> (Thunb.) Cogn.	Cucurbitaceae	kok som xao'	セイロンベンケンケイノウ	
65	<i>Citrullus vulgaris</i> Schrod. ex	Cucurbitaceae	mark fak	トウガン	実が食用
66	<i>Coccinia indica</i> Wigh et Am.	Cucurbitaceae	mark moh	スイカ	実が食用
67	<i>Cucumis melo</i> Linh.	Cucurbitaceae	phak tam nin	ヤサイカラスウリ	
68	<i>Cucumis sativus</i> Linh.	Cucurbitaceae	mark taeng ching	タイメロン	
69	<i>Cucurbita moschata</i> Duchesne	Cucurbitaceae	mark taeng	キュウリ	実が食用
70	<i>Lagenaria vulgaris</i> Ser.	Cucurbitaceae	mark eu'	カボチャ	実, 茎食用
71	<i>Luffa acutangula</i> (Linh.) Roxb.	Cucurbitaceae	khua nam tao	ユウガオ	実, 茎食用
72	<i>Luffa cylindrica</i> (Linh.) M. J. Roemer	Cucurbitaceae	mark buap liam (mark noi)	トカドヘチマ	実, 茎食用
73	<i>Momordica charantia</i> Linh.	Cucurbitaceae	mark buap	ヘチマ	実, 茎食用
74	<i>Solena amplexicaulis</i> (Lamk.) Gandihi	Cucurbitaceae	phak salai / mala	ニガウリ	
75	<i>Dioscorea hispida</i> Dennstedt	Dioscoreaceae	phak som phor dee par		
76	<i>Dioscorea</i> sp.	Dioscoreaceae	hua koy	ミツノトコロ	芋食用, 化粧
77	<i>Dioscorea</i> sp.	Dioscoreaceae	man heup'		芋食用
78	<i>Manihot esculenta</i> Crantz	Dioscoreaceae	man thien	キヤツサバ	葉, 芋食用
79	<i>Dipterocarpus hasseltii</i> Blume	Dipterocarpaceae	man ton		
80	<i>Diospyros decandra</i> Lour.	Ebenaceae	kok nyarng	カバクロクワカキ	
			kok chan		

No.	Scientific name	Family	English name	Japanese name	Use
81	<i>Acalypha wilkesiana</i>	Euphorbiaceae	Joseph's coat	アカリフア	
82	<i>Acalypha wilkesiana</i>	Euphorbiaceae	hu-ling		
83	<i>Croton jouffa</i> Roxburgh	Euphorbiaceae	kh uut		
84	<i>Euphorbia antiqorum</i> Linh.	Euphorbiaceae	kok pao'		
85	<i>Euphorbia indica</i> Lamk. var <i>glaberrima</i> Gagnepain	Euphorbiaceae	kok tabwong phet	Malayan spuruge tree	
86	<i>Euphorbia tirucalli</i> Linh.	Euphorbiaceae	kok yang eung	Frog's rubber	
87	<i>Hura crepitans</i> Linh.	Euphorbiaceae	sam phan ngar	Caustic bush	
88	<i>Jatropha curcas</i> Linh.	Euphorbiaceae	ton phoh tha lay	Portia tree	アオサング
89	<i>Jatropha podagrica</i>	Euphorbiaceae	mark nyao' kaa	Physic nut	スナノコノキ
90	<i>Phyllanthus acidus</i> (Linh.) Skeels	Euphorbiaceae	varn chut	Gout plant	タイワンアブラギリ
91	<i>Phyllanthus urinaria</i> Linh.	Euphorbiaceae	mark nyom	Star gooseberry	サンゴアブラギリ
92	<i>Sauropus androgynus</i> (Linh.) Merrill	Euphorbiaceae	nya ki-nin		アマガモノキ
93	<i>Bambusa blumeana</i> J.A. & J.H. Schultes	Gramineae	phak		コマカンノウ
94	<i>Bambusa multiplex</i> (Loureiro)	Gramineae	ko varn barn	Spiny bamboo	アマメシバ
95	<i>Bambusa pallida</i> Munro	Gramineae	ko sarrng phai	Hedge bamboo	タケの一種
96	<i>Bambusa tulda</i> Roxburgh	Gramineae	ko xarrng kham		ホウライチク
97	<i>Coix lachryma jobi</i> Linh. var. <i>lachrymar jobi</i>	Gramineae	mai bong	Bengal bamboo	タケの一種
98	<i>Cymbopogon nardus</i> Rendle/citrus (DC.) Stapf.	Gramineae	mark deuy	Job's tear	タケの一種
99	<i>Saccharum officinarum</i> Linh.	Gramineae	see khai'	Lemon grass	ハトムギ
100	<i>Saccharum officinarum</i> Linh.	Gramineae	oy / oy lao	Sugar cane	レモングラス
101	<i>Zea mays</i> Linh.	Gramineae	oy dam	Sugar cane	サトウキビ
102	<i>Garcinia cowa</i> Roxb. ex DC.	Guttiferae	mark sar lee	Maize	サトウキビ
103	<i>Cratogeomys formosum</i> Dyer	Hypericaceae	mark lam moong		トウモロコシ
104	<i>Engelhardtia spicata</i> Leschen. Ex Blume	Juglandaceae	phak tiu		
105	<i>Mentha piperita</i> Linh.	Labiatae	kok phao	Peppermint	ペパーミント
106	<i>Mentha viridis</i> Linh.	Labiatae	phak horm larp	spea mint	ミドリハツカ
107	<i>Ocimum basilicum</i> Linh.	Labiatae	phak horm seum/falang	Common basil	メボウキ
108	<i>Ocimum canum</i> Sims	Labiatae	phak bua la phar	Hairy basil	ヒメボウキ
109	<i>Ocimum gardneri</i> Thwaites	Labiatae	phak ee too		
110	<i>Ocimum sanctum</i> Linh.	Labiatae	phak horm porm	Holy basil	カミメボウキ
111	<i>Orthosiphon aristatus</i> (Blume) Miquel	Labiatae	phak ee too thai	Kidney teat plant	
112	<i>Anisochilus carnosus</i> Wl.	Labiatae	nya nuat maew		
113	<i>Nothaphoebe umbelliflora</i> Blume	Lauraceae	hoo seua		
114	<i>Acacia concinna</i> (Willdenow) Dc.	Leguminosae	kok yarrng bohng		
115	<i>Acacia pennata</i> Wild.	Leguminosae	phak som poy		
116	<i>Azelia xylocarpa</i> (Kurz) Craib	Leguminosae	phak kha		
117	<i>Cajanus cajan</i> (Linh.) Millspaugh	Leguminosae	ton kha	Red gram	キマメ
118	<i>Cassia javanica</i> Linh. subsp. <i>javanica</i>	Leguminosae	thua hae	Cassod teee	コチヨウセンナ
119	<i>Cassia sophora</i> Linh.	Leguminosae	ton khee lek		
120	<i>Clitoria ternatea</i> Linh.	Leguminosae	kok khan khaet/khee lek noi/fan fern	Blue pea	オオハノセンナ
			dork an san		チウウマメ

No.	Scientific name	Family	English name	Japanese name	Use
121	<i>Delonix regia</i> (Bojer ex Hook.) Rafinesque	Leguminosae	dork in xee	ホワオウボク	
122	<i>Dolichos lablab</i> Linh.	Leguminosae	kheua mark peap	フジマメ	
123	<i>Erythrina fusca</i> Loureiro	Leguminosae	kok torng kham	ナガハデイコ	
124	<i>Erythrina stricta</i> Roxburgh	Leguminosae	kok thornng		
125	<i>Indigofera tinctoria</i> Linh.	Leguminosae	ton kharm	インドアイ	実が食用
126	<i>Leucaena leucocephala</i> de Wit	Leguminosae	kok katin	ギンネム	実が食用
127	<i>Ormosia cambodiana</i> Gaqnepain	Leguminosae	khee moo		
128	<i>Pachyrhizus erosus</i> (Linh.) Urban	Leguminosae	man phao/saphao	クズイモ	実,芋食用
129	<i>Psophocarpus tetragonolobus</i> (Linh.) DC.	Leguminosae	mark thua phoo	シカクマメ	実が食用
130	<i>Samanea saman</i> (Jacquin) Merrill	Leguminosae	ton sarm sar	アメリカネムノキ	
131	<i>Senna (Cassia) alta</i> Linh.	Leguminosae	khee lek nyai		
132	<i>Sesbania grandiflora</i> (Linh.) Desv.	Leguminosae	dork khae	シロゴチヨウ	花食用
133	<i>Vigna radiata</i> (Linh.) Wilczek	Leguminosae	mark thua khiao	リョクトウ	実が食用
134	<i>Vigna umbellata</i> (Thunberg) Ohi & Ohashi	Leguminosae	mark thua daeng	ツルアズキ	実が食用
135	<i>Vigna unguiculata</i> (Linh.) Walp. susp. unguiculata	Leguminosae	mark thua nyaaao	ハタササゲ	実が食用
136	<i>Allium tuberosum</i> Rottl.	Liliaceae	phak paen	ニラ	
137	<i>Allium cepa</i> Linh.	Liliaceae	phak bua	タマネギ	葉食用
138	<i>Aloe vera</i> (Linh.) Burm.f.	Liliaceae	varn harmg khae	アロエ	
139	<i>Lawsonia inermis</i> Linh.	Lythraceae	kok kao	シコウカ	葉
140	<i>Gossypium arboreum</i> Linh.	Malvaceae	faai dork deeng	ワタ	繊維
141	<i>Gossypium herbaceum</i> Linh.	Malvaceae	faai dork lwang (noi)	ワタ	繊維
142	<i>Hibiscus sabdariffa</i> Linh.	Malvaceae	som phor dee	タイケナフ	
143	<i>Malvaviscus</i> spp.	Malvaceae	dork lort		鑑賞
144	<i>Donax cannaeformis</i> (G.Forster) K. Schumann	Marantaceae	ko khar		紐の代用
145	<i>Maranta arundinaceae</i> Linh.	Marantaceae	hua sakhuu	クズウコン	
146	<i>Marsilea crenata</i> presl	Marsileaceae	phak vaen	ナンゴクデンジソウ	
147	<i>Azadirachta indica</i> A.Juss. var. <i>siamensis</i> Valetton.	Meliaceae	kadao	ニーム	葉,花食用
148	<i>Azadirachta indica</i> A.Juss. var. <i>siamensis</i> Valetton	Meliaceae	kok sadao/kadao		
149	<i>Sandoricum koetjape</i> (burm.f.) Merrillill	Meliaceae	kok mark torng	サントール	
150	<i>Tiliacora triandra</i> (Colebr.) Diels	Menispermaceae	kheua yaanaang		
151	<i>Tinospora crispa</i> (Linh.) Hook. f. & Thompson	Menispermaceae	kheua khao' hor	イボツツラフジ	葉
152	<i>Xylia xylocarpa</i> (Roxb.) Taub. var. <i>xylocarpa</i>	Mimosaceae	kok deeng		建材・葉
153	<i>Artocarpus heterophyllus</i> Lamk.	Moraceae	ton mark mee	ジャックフルーツ	実が食用
154	<i>Ficus auriculata</i> Blume	Moraceae	mark var	オオハイチジク	
155	<i>Ficus fistulosa</i>	Moraceae	kok mark deua		若実,茎食用
156	<i>Ficus hispida</i> Linh.f.	Moraceae	kok deua porng		葉
157	<i>Ficus racemosa</i> Linh.	Moraceae	mark dwa	フサナリイチジク	実が食用
158	<i>Ficus religiosa</i> Linh.	Moraceae	ton phoh	インドボダイジュ	
159	<i>Morus alba</i> Linh. or (Morus species generally)	Moraceae	kok morn	マゴワ	実が食用,蚕の飼料
160	<i>Moringa oleifera</i> Lam.	Moringaceae	phak ee hoom	ワサビノキ	

No.	Scientific name	Family	English name	Japanese name	Use
161	<i>Musa sapientum</i> Linh.	Musaceae	Banana	バナナ	実が食用,包装材,飼料
162	<i>Musa</i> species generally	Musaceae		ユーカリ	
163	<i>Eucalyptus</i> species generally	Myrtaceae	Eucalyptus	グアバ	実が食用,薬
164	<i>Psidium guajava</i> Linh.	Myrtaceae	Guava		
165	<i>Syzigium</i> wild species generally	Myrtaceae	Bush cherry		
166	<i>Syzygium gratum</i> (Wt.) S.N.Mitra var. <i>gratum</i>	Myrtaceae			
167	<i>Jasminum sambac</i> (Linh.) Aiton	Oleaceae	Jasmine	マツリカ	
168	<i>Cymbidium simulans</i> Rolfe	Orchidaceae	Orchid	シンビジウム	鑑賞
169	<i>Orchidaceae</i> (genellary)	Orchidaceae	Areca palm	ラン	嗜好み料
170	<i>Areca catechu</i> Linh.	Palmae	Sugar palm	ビンロウジュ	
171	<i>Arenga pinnata</i> (Wurmb) Merrillill	Palmae	Palмира palm	サトウヤシ	
172	<i>Borassus flabellifera</i> Linh.	Palmae	Coconut	ハルミライヤシ	
173	<i>Cocos nucifera</i> Linh.	Palmae	Nipa palm	ココヤシ	実,茎食用,搾油?
174	<i>Nypa fruticans</i> Wurmb.	Palmae		ニツパヤシ	
175	<i>Rhapis</i> species generally	Palmae			
176	<i>Pandanus amaryllifolius</i> Roxburgh	Pandanaceae	teuy horm	ニオイタコノキ	
177	<i>Pandanus</i> sp.	Pandanaceae	dork ket	タコノキ	
178	<i>Sesamum orientale</i> Linh.	Pedaliaceae	Sesame	ゴマ	実が食用,薬
179	<i>Peperomia pellucida</i> Korth.	Peperomiaceae	phak sang	ウスハバコシヨウ	
180	<i>Piper betel</i> Linh.	Piperaceae	phoo khiao	キンマ	
181	<i>Piper sarmentosum</i> Roxb.	Piperaceae	phak nang lert	ハイゴシヨウ	葉食用
182	<i>Plantago major</i> Linh.	Plantaginaceae	phak phai	セイヨウオオオバコ	
183	<i>Polygonum odoratum</i> Lour.	Polygonaceae	phak phaew	ミズゴシヨウ	
184	<i>Portulaca pilosa</i> Linh.	Portulacaceae	dork 9mong	ヒメマツバボタン	
185	<i>Punica granatum</i> Linh. var. <i>granatum</i>	Punicaceae	mark phee lar	ザクロ	実が食用,薬
186	<i>Colubrina asiatica</i> Linh. ex Brongn.	Rhamnaceae	sattii deeng	ヤエヤマハマナツメ	
187	<i>Ziziphus jujuba</i> Miller	Rhamnaceae	ton mark kathan	ナツメ	実が食用
188	<i>Rosa</i> spp.	Rosaceae	dork ku larp	バラ	鑑賞
189	<i>Gardenia augusta</i> (Linh.) Merrillill	Rubiaceae	dork phut/in-tha-var	クチナシ	
190	<i>Ixora</i> spp.	Rubiaceae	dork khem'	サンタンカ	
191	<i>Morinda citrifolia</i> Linh.	Rubiaceae	kok nyo barnmark sang	ヤエヤマアオキ	
192	Citrus	Rutaceae	mark kieng		
193	<i>Citrus aurantifolia</i> (Christm.) Swingle	Rutaceae	mark nao (noi)	ライム	実が食用
194	<i>Citrus hystrix</i> DC.	Rutaceae	kok mark kee hoot/varn	コブミカン	実,若葉食用
195	<i>Citrus maxima</i> (Burm.f.) Merrill.	Rutaceae	som oh	ザボン	
196	<i>Feronia limonia</i> Swing.	Rutaceae	kok mark sang	ゲッキン	実,葉食用
197	<i>Murraya paniculata</i> (Linh.) Jack	Rutaceae	dork kaew		
198	<i>Zanthoxylum rhetsa</i> (Roxb.) DC	Rutaceae	mark khaen		実が食用
199	<i>Allophylus sootepensis</i> Craib.	Sapindaceae	kok khon ma		
200	<i>Dimocarpus longan</i> Loureiro subsp. <i>longan</i> var. <i>longan</i>	Sapindaceae	mark lam nyai'	Longan	実が食用,薬

No.	Scientific name	Family	mark huat mark lin-chee ton mark ngaew mark ngo' kok mark kho mark kho lean kok mark nam nom mark la-mut (noi) phak khao thong phak kha-nyaeng kok phia' farm bok mark phet kee noo mark phet (khao) dork barm kham mark len yar soop mark kheua kheun mark khweeng khom mark kheua ham (nyao) mark kheua/varn mark erk' mark khaeng/khom/narm/varn mark mao' ton xar mark ta kop ton see siet phak xee phak magae/sagae phak horm pe phak nork phak parn kok tang kai phung moo phak kum ton sak nya phoo dork targ kai nya khee kark hua khar	English name	Japanese name	Use
201	<i>Lepisanthes rubiginosa</i> (Roxb.) Leenh.	Sapindaceae	mark huat	Litch	ライチ	実が食用
202	<i>Litchi chinensis</i> Sonn.	Sapindaceae	mark lin-chee			実が食用
203	<i>Nephelium hypoleucum</i> Kurz.	Sapindaceae	ton mark ngaew	Rambutan	ランブータン	実が食用
204	<i>Nephelium lappaceum</i> Linh.	Sapindaceae	mark ngo'	Ceylon oak	セイロンオーク	実、葉食用
205	<i>Schleichera oleosa</i> (Lour.) Oken	Sapindaceae	kok mark kho			
206	<i>Xylocarpum laoticum</i> Gagnepain	Sapindaceae	mark kho lean			
207	<i>Chrysophyllum cainito</i> Linh.	Sapotaceae	kok mark nam nom	Milk tree	スイシヨウガキ	実、茎食用
208	<i>Manilkara zapota</i> (Linh.) P.van Royen	Sapotaceae	mark la-mut (noi)		サボシラ	
209	<i>Houttuynia cordata</i> Thunberg	Saururaceae	phak khao thong	Golden wildcat vegetable	ドクダミ	芋食用 葉食用
210	<i>Limnophila geoffrayi</i> Bonati	Scrophulariaceae	phak kha-nyaeng			
211	<i>Brucea javanica</i> (Linh.) Merrill	Simaroubaceae	kok phia' farm			
212	<i>Irvingia malayana</i> Oliver ex A.Benn.	Simaroubaceae	bok		ニガモドキ	
213	<i>Capsicum frutescens</i> Linh.	Solanaceae	mark phet kee noo	Bird pepper	キダチトウガラシ	香辛料
214	<i>Capsicum</i> species generally	Solanaceae	mark phet (khao)		トウガラシ	香辛料
215	<i>Cestrum nocturnum</i> Linh.	Solanaceae	dork barm kham	Night-blooming jasmine	ヤコウボク	
216	<i>Lycopersicon esculentum</i> Mill.	Solanaceae	mark len	Tomato	トマト	実が食用
217	<i>Nicotiana tabacum</i> Linh.	Solanaceae	yar soop	Tabacco plant	タバコ	
218	<i>Solanum aculeatissimum</i> Jacq.	Solanaceae	mark kheua kheun	Cock roach berry	キンギンナスビ	実が食用
219	<i>Solanum indicum</i> Linh.	Solanaceae	mark khweeng khom		テンジクナスビ	実が食用
220	<i>Solanum melongena</i> Linh.	Solanaceae	mark kheua ham (nyao)	Egg plant	ナス	実が食用
221	<i>Solanum</i> spp.	Solanaceae	mark kheua/varn			実が食用
222	<i>Solanum stramonifolium</i> Jacq.	Solanaceae	mark erk'		スズメナスビ	実が食用
223	<i>Solanum torvum</i> SW.	Solanaceae	mark khaeng/khom/narm/varn	Antidesma fruits	ブニノキ	実が食用
224	<i>Antidesma bunius</i> Sprengel	Stilaginaceae	mark mao'	Tea bush	チャノキ	実が食用
225	<i>Camellia sinensis</i> (Linh.) Kuntze	Theaceae	ton xar	Calabura	ナンヨウザクラ	実が食用
226	<i>Muntingia calabura</i> Linh.	Tiliaceae	mark ta kop	Burma mahogany		
227	<i>Pentace burmanica</i> Kurz	Tiliaceae	ton see siet	Dill	デイル	葉、茎食用
228	<i>Anethum graveolens</i> Linh.	Umbelliferae	phak xee			葉、茎食用
229	<i>Coliandrum sativum</i> Linh.	Umbelliferae	phak magae/sagae		オオバコエンドロ	
230	<i>Eryngium foetidum</i> Linh.	Umbelliferae	phak horm pe	Chinese grass cloth plant	ネコノヒゲ	
231	<i>Hydrocotyle javanila</i> Thunb. (Centella asiatica (Linh.) Urban	Umbelliferae	phak nork	Pagota flower	ナンバンカラムシ	
232	<i>Boehmeria nivea</i> (Linh.) Gaud.	Urticaceae	phak parn		ヒギリ	
233	<i>Clerodendron paniculatum</i>	Verbenaceae	kok tang kai			
234	<i>Gmelina asiatica</i> Linh./ <i>elliptica</i> J.F. Smith	Verbenaceae	phung moo			
235	<i>Hymenopyramis brachiata</i> Wallich	Verbenaceae	phak kum			
236	<i>Tectona grandis</i> Linh.f.	Verbenaceae	ton sak	Teak	チーク	
237	<i>Cissus quadrangularis</i>	Vitaceae	nya phoo			
238	<i>Leea indica</i> (Burm.f.) Merrill	Vitaceae	dork targ kai	Tall yellow-eyed grass	オオウドノキ	
239	<i>Xyris indica</i> Linh.	Xyridaceae	nya khee kark			
240	<i>Alpinia malaccensis</i> (Burm.f.) Roscoe	Zingiberaceae	hua khar		ナンキョウ	根が食用

出現種一覧 vol.7

No.	Scientific name	Family	English name	Japanese name	Use
241	<i>Alpinia</i> sp.	Zingiberaceae	khar par		芋食用
242	<i>Curcuma longa</i> Linn.	Zingiberaceae	khee min (kheum')	ウコン	薬
243	<i>Hedychium coronarium</i> Koenig	Zingiberaceae	dork sa-hern'		
244	<i>Kaempferia galanga</i> Linn./ <i>laotica</i> Gagnepain	Zingiberaceae	varn horm	バンウコン	
245	<i>Zingiber montanum</i> (koening) Link ex Dietr	Zingiberaceae	varn phai		
246	<i>Zingiber officinale</i> Rosc.	Zingiberaceae	hua kheeng bee bar khuu	シヨウガ	
247			bua bok		
248			dork chia		
249			dork dao ka chyai		
250			kok ee tao		
251			ton euang		
252			faai nyai		
253			phak hom nyai		
254			hoo kuarng		
255			hoo sarnng		
256			phak horn haen		
257			kok ka-ling		
258			dork kap kae		
259			ka-phe		
260			dork ket narm		
261			dork khaew		
262			phak kha-mek chek		
263			kheeng dam		
264			dork khoon khean		
265			dork khuu		
266			kok ki-nin		
267			phak koot		
268			dork kut		
269			lam thup		
270			phak lin lorng		
271			kok ma hing		
272			kok mark khai		
273			mark kuay see et		
274			mark kuay tani		
275			mark nao chum		
276			ton mark ovariantin		
277			mark thin		
278			narn kuak		
279			narn kuak mea		
280					

No.	Scientific name	Family	English name	Japanese name	Use
281			nga		
282			kok norn nai		
283			ko phai' noi		
284			kok phoo phee		
285			dork phu ngun phu thorn		
286			dork phut ta hak sa		
287			kok pong kiu		
288			sam pho		
289			ton sa-thep		
290			dork sea tee		
291			dork sea tee nyai		
292			tabwong phet nyai'		
293			tar seua		
294			dork tarven noi		
295			varn kan pee hai		
296			varn khom		
297			varn khorn		
298			varn ngu		
299			phak varn par		
300			varn saneachan		
301			varn son khiao		
302			dork xorn nyai		